

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	12-064	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Alcohol intake and renal cell cancer risk: a meta-analysis. 飲酒と腎細胞癌のリスク：メタアナリシス		
執筆者		
Song DY, Song S, Song Y, Lee JE.		
掲載誌		
Br J Cancer. 2012 May 22;106(11):1881-90.		
キーワード		
アルコール、腎細胞癌、メタアナリシス		
要 旨		
目的： 最近の研究で飲酒と腎細胞癌リスクとの反比例関係が示唆されてきているため、本研究ではそれらの関連性を調べることを目的とした。		
方法： メタアナリシスにて我々は飲酒と腎細胞癌リスクとの関係を調べた。我々は Pubmed、EMBASE、MEDLINE データベースを検索して 2011 年 8 月までに出版された研究を同定した。我々はランダム効果モデルを用いて各研究の相対リスク(以下 RR)を結合した。		
結果： 今回メタアナリシスでは、全体で 20 のケースコントロール研究、3 つのコホート研究、1 つのコホート研究の pooled analysis を含んだ。我々はケースコントロール研究およびコホート研究の結合分析において、飲酒が腎細胞癌リスク低下と関連しているといことを観察した。飲酒総量の最少カテゴリーと比較した最大カテゴリーの RR(95%信頼区間)は、ケースコントロール研究では 0.76(0.68~0.85)で、コホート研究では 0.71(0.68~0.78)であった(研究デザインの違いについての P 値は 0.02)。男女別でもアルコールの種類別(ビール、ワイン、リキュール)でも反比例関係が示された。また、アルコール飲料の一日 1 回の飲酒は腎細胞癌リスク減少させるが、それを超える飲酒は有益ではないということが分かった。		
結論： 我々のメタアナリシスから得られた結果は、飲酒が腎細胞癌リスク低下に関連しており、中等量であれば予防的に働き多量であれば有益とはならない、という仮説を支持するものである。		